

「とっとり評判記」

第2話

なんでも

あか 陸にあがった屋形船



袋川に浮かんだ最後の屋形船
梅鯉庵前
 ※この船は昭和25年に賀露で造船され、同26年に陸上に引き上げられたものです。このころには、一般に旧袋川では船はほとんど使われなくなっていました。

こだまちゃん：今日はおうちだに櫓おうちだににやってきましたよ。ここは5月でも涼しいね。

やまびこ博士：江戸時代には神社や寺院が立ち並んでいたおうちだに櫓おうちだには、明治以降は町の人憩いの場、公園として親しまれてきた場所だよ。最近では、鳥取市歴史博物館（やまびこ館）のある場所としても知られているかな。

こだまちゃん：もうすぐみられるホタルのはんしょく繁殖地としても有名だね。今日はここのお話？

やまびこ博士：いや、今日は、そのおうちだに櫓おうちだに公園の入り口にあるこの建物の話だよ。

こだまちゃん：そういえば、なんだか不思議な建物ね。

やまびこ博士：実は、建物じゃなくて船なんだよ。

こだまちゃん：えー、そうなの？

やまびこ博士：やかたぶね屋形船えんかいと言って、川に浮かべて宴会をしたり、船遊びに使われたりしたものなんだ。

こだまちゃん：そうなんだ。どこで使われていたの？千代川？

やまびこ博士：いやいや、これは、旧袋川に浮かべられていたものなんだよ。

こだまちゃん：あんなに水の少ない川にどうやって浮かんでいたの？

やまびこ博士：もともとは「袋川」と呼ばれていたこの川は、もっと水が多かったんだ。鉄道が開通するまでは、鳥取の町で必要なものがこの川を通る船で運ばれていたんだ。鹿野橋のあたりには大きな船着き場があり、市場も開かれていた。

こだまちゃん：大事な交通路だったのね。

やまびこ博士：この川の吉方から出合橋あたりまでは、江戸時代の前期に城下町を作るために掘られたんだよ。久松山の近くを流れていた川を付け替えて、お城や城下町を敵から守る堀の役割をもたせ、同時に水道や交通路としても利用できるようにしたんだ。

こだまちゃん：昔の人たちにとっては、暮らしに結びついた、とても大事な川だったのね。でも、今では船も通っていないし、水も使われていないわね。

やまびこ博士：たくさんの水量があった江戸時代の袋川は、大雨が降ると洪水を起こして周辺の町に大きな損害を与えていたんだよ。近代になって、水道やほかの交通手段の整備が進むにつれ、水害の危険が問題視されるようになったんだ。

こだまちゃん：それで、川の水を減らすことになったのね。

やまびこ博士：大正7年9月14日に起きた水害で、鳥取市街地の2万5千軒が浸水する大きな被害を受けたんだ。これをきっかけに、大正15年（昭和元年）から昭和9年まで袋川を含む千代川の治水工事が行われ、現在の新袋川ができた。それから「袋川」は旧袋川と呼ばれるようになったんだ。

こだまちゃん：水の流れる道筋を増やして、水害をなくそうとしたのね。

やまびこ博士：そして、旧袋川は現在のように浅い川となって、船は通らなくなったんだ。

こだまちゃん：この船は、最後に袋川に浮かべられたやかたぶね屋形船なのね。

【佐々木孝文（鳥取市歴史博物館学芸員）】

印刷 株式会社鳥取平版社